

2026年(令和8年)度

# 特定非営利活動法人 **子どもの森**

## 総会議案書

むぎ さい ぱい

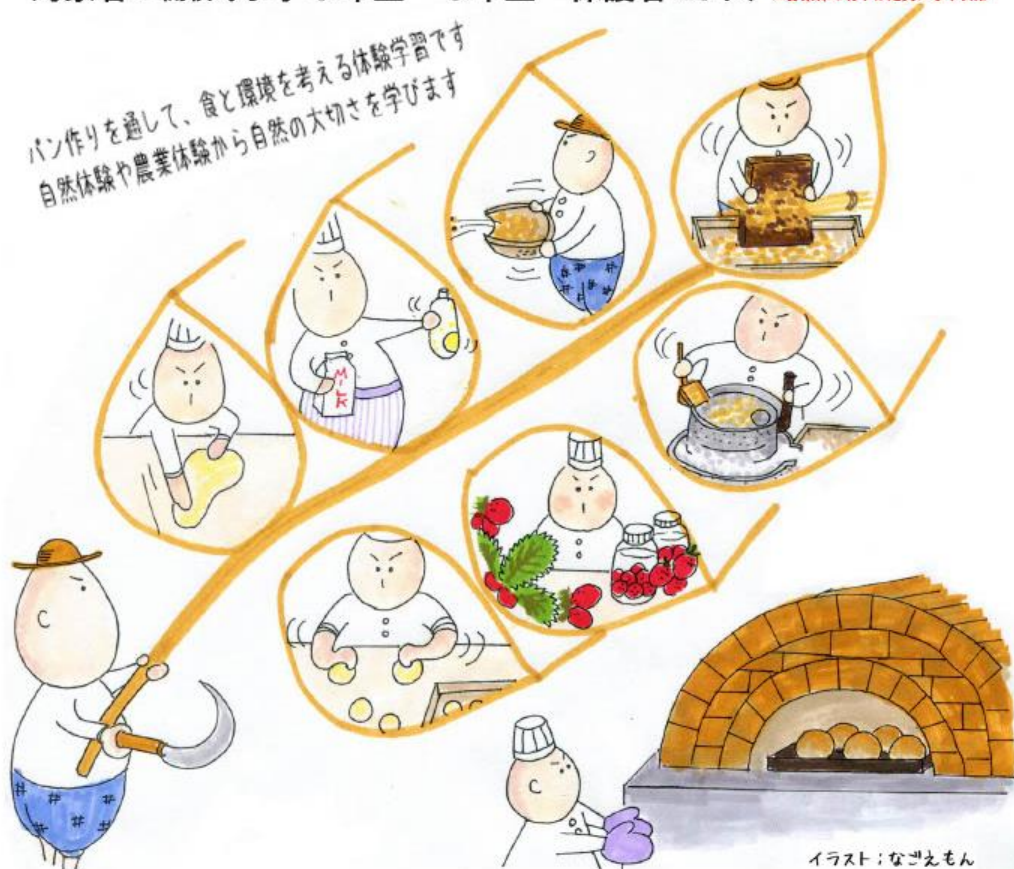
### 麦栽培からはじめるパン作り

開催日：令和7年11月～  
令和8年5月(計7回)

**参加者募集**

対象者：開校時小学3年生～6年生・保護者25人 ※募集締め切りは定員になり次第

パン作りを通して、食と環境を考える体験学習です  
自然体験や農業体験から自然の大切さを学びます



参加費：お一人3,000円(全日程分)  
損害保険、材料代、講師料等含む

場 所：森の学舎(もりのまなびや)旧西門川小学校松瀬分校  
住所/門川町大字川内字イカダ場3412番地1

申込み：子どもの森HP・メール・電話にて受付



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
子どもの森は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

日 時：2026年4月19日(日)9時30分～

場 所：もり まなびや  
森の学舎

# 総 会 次 第

1. 開会のことば
2. 議長選出
3. 議事録署名人任命
4. 資格審査報告
5. 報告事項
  - I. 2025年度活動経過報告
  - II. 、 、 活動決算報告
  - III. 監査報告
6. 議案
  - I. 2026年度活動方針（案）
  - II. 、 、 活動予算（案）
7. 議長降壇
8. 閉会のことば

総 会	日 時	場 所
設立総会	平成 15 年 7 月 12 日（土）13:00	子どもの森事務所
第 2 回通常総会	平成 16 年 4 月 15 日（木）10:30	子どもの森事務所
臨時総会（第 3 回）	平成 16 年 11 月 19 日（金）19:30	クリエイティブセンター門川
第 4 回通常総会	平成 17 年 5 月 8 日（日）10:00	門川町商工コミュニティセンター APIO
第 5 回通常総会	平成 18 年 4 月 22 日（土）18:00	門川町中央公民館
第 6 回通常総会	平成 19 年 5 月 20 日（日）16:00	ガーデンベルズ延岡エメラルドの間
第 7 回通常総会	平成 20 年 5 月 17 日（土）10:00	（仮称）森の学舎（旧西門川小学校松瀬分校）
第 8 回通常総会	平成 21 年 4 月 25 日（土）10:00	森の学舎
第 9 回通常総会	平成 22 年 4 月 25 日（日）10:00	森の学舎
臨時総会（第 10 回）	平成 22 年 10 月 13 日（水）19:30	クリエイティブセンター門川
第 1 1 回通常総会	平成 23 年 4 月 24 日（日）9 : 30	森の学舎
第 1 2 回通常総会	平成 24 年 4 月 22 日（日）9 : 30	森の学舎
第 1 3 回通常総会	平成 25 年 5 月 6 日（月）9 : 30	森の学舎
第 1 4 回通常総会	平成 26 年 4 月 27 日（日）9 : 30	森の学舎
第 1 5 回通常総会	平成 27 年 4 月 29 日（水/祝）9 : 30	森の学舎
第 1 6 回通常総会	2016 年 4 月 29 日（金/祝）9 : 30	森の学舎
第 1 7 回通常総会	2017 年 4 月 29 日（土/祝）9 : 30	森の学舎
第 1 8 回通常総会	2018(平成 30)年 4 月 22 日（日）9 : 30	森の学舎
第 1 9 回通常総会	2019(平成 31)年 4 月 21 日（日）9 : 30	森の学舎
第 2 0 回通常総会	2020(令和 2)年 4 月 26 日（日）9 : 00	森の学舎
第 2 1 回通常総会	2021(令和 3)年 4 月 25 日（日）9 : 00	森の学舎
臨時総会（第 22 回）	2021(令和 3)年 6 月 27 日（日）13 : 00	森の学舎
第 2 3 回通常総会	2022(令和 4)年 4 月 24 日（日）9:00	森の学舎
第 2 4 回通常総会	2023(令和 5)年 4 月 23 日（日）9:00	森の学舎
第 2 5 回通常総会	2024(令和 6)年 4 月 27 日（土）9:00	森の学舎
第 2 6 回通常総会	2025(令和 7)年 4 月 20 日（日）9:00	森の学舎
臨時総会（第 27 回）	2025(令和 7)年 8 月 31 日（日）11 : 00	森の学舎

## 報告事項Ⅰ. 2025年度活動経過報告

### 1. 事業の成果

- 5 ① 環境プログラム（春を楽しもう）を開催することで、里山等の自然体験交流と自然環境を理解してもらったための啓発活動ができた。
- ② 県北地域の親子を中心に、パンに必要な材料（小麦粉・塩・バター・酵母など）を自分たちで作  
り、パンを焼くことを通して自然環境を考える体験型環境学習で、地球環境に負荷をかけずに食を  
考えてもらう啓発活動ができた。
- 10 ③ 耕作放棄の田んぼを復活させて田んぼの働きを戻し、里山の自然景観を守り、そして、大切な  
ものがたくさんあり存在する魅力や価値を後世に繋ぐ活動ができた。
- ④ 環境文庫（森の学舎）にて、森の学舎の活用と環境問題全般を学習できる場を提供することがで  
きた。
- ⑤ Web ページ、Facebook と Instagram により、活動の情報発信と環境問題の啓発活動ができた。

15

### 2. 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

#### （1）農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

- 20 ① 麦栽培からはじめるパン作り（四季をまるごと体験 eco スクール派生活動）  
食卓に並ぶパンが、麦畑作り・小麦粉作り、塩・バター・酵母、パン焼きまでの一連の作業を通して、  
たくさんの人の手を経て作られるのを知り、収穫した麦から自分たちでパン焼きをすることで食べ物  
の大切さを実感してもらえたと思います。また、輸入食材でなく地域で作られる食材の方が地球環境に低  
負荷であることを知ることで、地球環境にできるだけ負荷をかけないことが大切であることを考えても  
25 らうことができました。

今年度で 15 年目となる「四季をまるごと体験 eco スクール」は、活動資金が確保できなかったの  
で、パン作りに特化した内容としました。22 名の参加者と延べ 6 名のスタッフで活動を進めています。  
なお、麦刈りと脱穀は、次年度（2026 年 5 月）に継続実施することにしています。

- 30 ・実施場所：森の学舎、eco スクール麦畑  
・参加者：子ども 10 人と成人 12 人  
・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市教育委員会、日向市教育委員会、門川町教育委員会  
・内容：地域の小学生とその保護者や成人に対して、農業体験から自然の大切さを理解し将来の  
35 自然環境の守り手に育ってもらうために、4 カ月の期間を通して同一の参加者で下記の  
プログラムを実施しました。

日時	参加者 (子ども)	スタッフ	プログラム
第 1 回 11月15日	16 (7)	3. 5	開校式 ・学校名や学年、活動に参加した目的などの自己紹介。 ・初対面である参加者同士が早く仲良くなるためのネイチャーゲーム。 麦栽培（麦畑作り） ・麦種を蒔くために畑を耕うん。 ※麦蒔き筋の箇所には溝を掘り、落葉・刈草・麦藁・糠を埋設して堆肥とする。

第2回 11月22日	20 (9)	6	麦栽培（麦畑作り） ・麦種を蒔くために畑を耕うん。（第1日に残った畑作り作業） ・麦種を蒔く。
第3回 12月13日	13 (5)	5. 5	塩作り ・海水（事前にスタッフで採海水）を簡易釜戸で沸かして水分を蒸発させ塩を採取。塩づくりの副産物であるにがりも採取。 ・採取した塩をフライパンで炒めて乾燥。
第4回 1月24日	18 (9)	4. 5	酵母作り ・食品瓶に、パンで必要となる酵母を仕込む。（食品瓶は自宅に持ち帰り自宅で酵母を育てる） 小麦粉作り ・麦を石臼で挽いて小麦粉にする。 清掃 ・石臼での麦挽きで汚れた室内と石臼の掃除。 ※酵母作りと小麦粉作りをグループ分けして交互に行う。
第5回 2月14日	17 (7)	6	バター作り ・パン生地に練りこむバターを、生クリームと牛乳で作る。 パン作り ・作った塩と挽いた小麦粉と作ったバターでパン生地作り。 ・1次発酵を済ませて、想いおもいの形にパン形成。 ・パン焼きする順番に2次発酵して釜でパン焼き。
第6回 第7回	(予定) 2026年5月		・麦刈り ・脱穀

他に、スタッフが各回に実施する内容の下見や準備等を下記の通りおこないました。

日付	スタッフ	内容
5月23日 25日 31日	延11人	昨年度のecoスクールで麦蒔きをして育った麦の刈り取りと脱穀。
9月27日 28日	延6人	イノシシに荒らされ大雨で土砂の流入した麦畑の畑周り溝と草取り整地作業。
11月8日	2人	下阿蘇海岸で海水汲み。
11月9日	5人	麦畑作りのための落葉を拾いと草刈り。 教室の掃除。
1月17日	5人	石臼の清掃と上臼の廻し取っ手の調整。 目隠し障子張り。
3月7日	3人	鹿による被害が2度あったため麦畑を防獣テープで囲む。

## ② 休耕田復元プロジェクト

5 耕作放棄の田んぼを復元させて田んぼの働き（作物が育ちやすい土作り、水をきれいにする、上流の森林の豊かな資源の有効活用、周りの気温や湿度を守る、地下水の量を一定に保つ、洪水や土砂崩れを防ぐ、いろいろな生物が住む「家」の働き）を戻し、里山の自然景観を守り、存在する魅力や価値を後世に繋いで行く活動です。

10 2021年度から2年間、松瀬地区の休耕田を田んぼに戻してきましたが、2023年度は田んぼの持ち主が田んぼを貸すことを拒んだため、2024年度から取り組む予定だった北郷黒木地区の休耕田を、1年前倒しで2023年度に復元しました。北郷黒木地区の休耕田も松瀬の休耕田と同じように、セイタカアワダチソウ等の背の高い雑草が増殖しはじめ、著しく自然景観が悪くなっていました。2023年度に復元

した田んぼ（田植え面積約 150 m<sup>2</sup>）の他に、2024 年度には同じ面積の田んぼを復元しました。そして、無農薬で人の手作業による米作り体験の場にすることができました。前年度と同様に参加者を募って、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、そして収穫したコメを食べる（餅つき）までの節目の作業を体験実施しました。2025 年度は、さらに 20 m<sup>2</sup>ほど田んぼを拡張しました。

5 これまで復元した田んぼは、約 320 m<sup>2</sup>となり、2023 年度に復元した田んぼには、もち米（マンゲツ）を、2024 年度に復元した田んぼには、うるち米（ヒノヒカリ）を作りました。

2024 年度から、前向きに 30 cm 間隔で稲苗を 1 本ずつ植えていきました。小学校就学前の幼児もがんばって田植えをしてくれました。

また、田んぼを囲みヒマワリが咲くように、ヒマワリの種も蒔きました。

10

- ・実施場所：北郷黒木地区の耕作放棄の田んぼ
- ・助成等：高原環境財団「子供たちの環境学習活動」
- ・参加者：一般参加者 35 人（子供含み）、スタッフ 7 人

15

#### 実施日と内容

日付	参加者	スタッフ	内容
5月10日、11日		延べ 8	・刈払機と自走式草刈機を使つての草刈 ・畦修理と今年（2025年）度復元する部分の掘り起こしと畦の土盛
6月7日、8日		延べ 9	・水を張るために田んぼ表面をマイクロショベルカー・耕うん機・熊手を使って平らにならし畔を固め ・用水路から田んぼに水を入れる
6月21日		4	・刈払機と自走式草刈機で畔の草刈り ・足洗いの用水路の草刈り ・田植え用玉紐を張るための支柱立て ・ヒマワリの種を蒔くために田んぼ周辺を耕うん
6月22日	3 3	5	・もち米「マンゲツ」とうるち米「ヒノヒカリ」を田植え ・田んぼの役割のはなし ※メディア取材：ケーブルTVワイワイ、MRT、UMK
		5	・田んぼの囲みにヒマワリの種蒔き
7月12日		2	・草取りの準備（田んぼ畔と周辺の草刈り）
7月13日	1 5	4	・田車と簡易水田中除草機を使つての草取り ・フィールドビンゴ等を田んぼで実施
7月27日	2 3	4	・簡易水田中除草機を使つて草取り ・田んぼに生えているコナギを調理（スタッフで天ぷら・和え物・炒め物・焼きそば）して、参加者とボランティアの全員で食べる
8月10日	1 9	5	・田んぼの生きもの観察と昆虫の講和※新開孝さん ・田んぼの生き物への影響を最小限に抑えるために手作業で丁寧に草を除去
8月24日	2 4	5	・水田熊手を使つて草のかき出し ・手抜きで丁寧に雑草を除去 ・竹を使つて案山子を作つて田んぼに設置 ※メディア取材：MRT
10月18日		4	・畔の草刈り ・稲架（はさ）かけの設置
10月19日	9	5	・2面の田んぼを手鎌で刈り取り（1面目は約1時間30分、2面目は約1時間） ・稲を束ねてはさ掛け

11月1日		4	・脱穀農具（唐箕、足踏み脱穀機）の掃除とセッティング
11月2日	2 6	6	・足踏み脱穀機と唐箕を使って脱穀 ・レンゲの種まき ※収穫量：うるち米22kg、もち米24kg
11月30日	2 7	6	・収穫祭（餅つき）
12月2日		2	・案山子終い

### ③ 椎茸ホダ木の管理（ほだ場作業）

2023年度に、みやざき森づくりボランティア協議会でコマ打ち（植菌）した原木（約15本）から、少量の椎茸が発生し収穫をしました。収穫した椎茸の一部は、森の学舎での催しの際に、味噌汁の具材として使用しました。

## （2）中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

### ① 子どもの森1号地（杉と広葉樹の混交林）

2006年3月に400本を植樹した子どもの森1号地は、植樹した苗木も大きくなり下草刈の必要がなくなり、センダンの樹高は3mをはるかに超え、その他の樹木も人間の背丈よりもすいぶんと高くなっています。現在は、自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていません。

### ② GOCANの森（門川高校演習林災害跡の再生）

門川高校生と協働して実施した森林の再生活動（2007年3月に植樹、2013年3月に補植樹）をした門川高校実習林の苗木が大きくなり下草刈の必要がなく、ケヤキの樹高は3m以上になり、ヤマザクラは花を咲かせています。現在は、子どもの森1号地と同様に自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていません。

### ③ 妖精の森（放置竹林の広葉樹林への復元活動）

手入れがされず放置されている竹林（森の学舎裏の竹林）を、雑木林に再生し人や動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能の維持増進を図るために、2009年度から継続して竹の伐採を続けてきました。これまで伐採した竹林の面積は約0.2haを超え予定していた範囲の伐採は、2016年度に終了しています。2025年度は、竹林整備の前日が雨天で足元が悪かったので実施できませんでした。

### ④ お地蔵さんの森（森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動）

放置されている里山を整備して体験型環境学習の広場作りを、2019年から実施しています。森林の体験型環境学習のため広場を整備し、水辺の体験型環境学習で活用するために松瀬川（五十鈴川支流）への昇降道も整備しています。

2025年度は、麦畑のたい肥にするための落ち葉拾いを行いました。

## （3）地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

### ① 野草を活用した自然体験交流（春を楽しもう）

自然を親しみ、自然の豊かさ・大切さを学ぶ活動です。野草観察を食べる分だけ摘んで参加者とスタッフが一緒に調理していきます。自分の足元から春を感じ、自然環境を考えていきます。

野山に限らず身近なところにも食べられる野草が自生していることを知り、緊急時でも食料の確保ができることも体感します。

曇り空で肌寒い中、野草を観察し参加者全員で調理を進めることができました。

・活動の目的：人間を含む生き物すべてが自然の中で育まれているので、地球環境を大事にする気持ちを高めて欲しい。そのために、春になって野草の芽吹きに触れ自然環境に関心・興味を持

ってもらおうプログラムとして、野草の収穫と調理して食する活動を実施する。

- ・活動の成果：子どもたちとその保護者が、ふだんの生活では気づくことができない身近かな食べることができる野草の観察と調理して食することを通して、地球規模ではなく自分の足元にある自然の恩恵と大切さを実感できた。そして、自然環境を守るために必要な自分ができることを考えるきっかけづくりができた。自然を大切に守ろうと思う心の芽生えは、子どもたちの健全育成に大きな影響をあたえることができた。

・実施日：2026年3月22日

・参加者：子ども10人（内幼児1人）、保護者10人、一般：1人

・講師：成迫平五郎（宮崎県環境保全アドバイザー）※野草観察  
横山純子（会員、宮崎県環境保全アドバイザー）※野草調理

・スタッフ：4人

・後援：宮崎県・宮崎県教育委員会・延岡市教育委員会・門川町教育委員会

・助成等：子どもゆめ基金

・内容：野草の観察と収穫、野草調理（天ぷら、お好み焼き、ピザ、白和え、ゴマ合え、酢味噌合え、土筆の卵とじ、豚汁、飯盒ご飯）

・準備(3/7、14、21)：会場になる森の学舎の掃除、孟宗竹を伐採し手水舎（てみずしゃ）製作、他

#### (4) 地場産業の振興、街づくり、人づくり

##### ① 地域コミュニティーによる耕作放棄地の活用と生活困窮者の支援

食料の生産、共有、消費の方法を考え直す時が来ています。農林水産業は適切に機能すれば、すべての人に栄養豊富な食料を提供し、農村開発を支え環境を守ることができます。

一般参加者や地域住民と一緒にになって耕作放棄された田畑を活用した米作りや野菜栽培などを通して考え、地球環境に負荷をかけないで自分たちにできる取り組みへの気づきを促し里山や中山間地域の自然景観を復元し、その魅力を発信させる一環として「休耕田復元プロジェクト」事業を進めています。

・場所：北郷黒木地区の原野（休耕田復元田んぼの隣）

・助成：連合愛のキャンパ

原野には、体験農園として果樹や野菜を育て収穫するために、晩白柚（ばんぺいゆ）・オリーブを植栽しました。まだ農作物の収穫がない状況ですので、生活困窮者の支援はできませんでした。

##### ② 古民家再生

地域のサードプレイス（環境学習の教室、日常的に大人や子どもが集まる処、防災時の補助的な避難所、地域の農産物販売所など多様な利用方法があると思われます）として、美郷町北郷黒木にある築117年の古民家を再生し活用するための費用を調達するために、認定NPO法人の申請をしました。

この古民家は、柱や床などがシロアリ被害によって、家全体が歪んでいます。再生が可能なのかを業者による家屋調査を実施し、再生可能であるとの調査結果がでました。また、前住人がそのままに放置していた荷物や家具のかたづけと、朽ちて崩れていた納屋の撤去も終了しました。2022年から古民家再生を開始できる状態になっていますが、資金の調達ができずに、3年前から何もできていません。

##### ③ そらいろのたね

横山理事長が、将来に体験型宿泊体験施設に活用するために2023年に耕作放棄田んぼと一緒に購入した当時築33年の民家を、休耕田復元プロジェクトの学習館として利用しています。

#### (5) 市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業

##### ① 林業大学校の学習支援

美郷町のみやざき林業大学校からの依頼で、8月27日に森の学舎で、林業大学校生を対象に森林環境

教育の一環としてネイチャーゲームを実施しました。

ネイチャーゲームリーダーである横山理事がメイン講師として、横山理事長がサブ講師として出向きました。

## 5 (6) 活動の情報発信・啓発のための事業

### ① SNSの運用

・実施時期：4月～2026年3月

10 ・概要：子どもの森のすべての活動と自然環境啓発等を、月平均約2回程度のWebページ更新、facebookは年間22回、instagramは年間23回の投稿・情報発信をおこないました。

### ② 機関紙の発行

発行できませんでした。

### 15 ③ 案内チラシの作成

・実施時期：各プログラムの開催1カ月～2カ月前

20 ・概要：宮崎県や宮崎県教育委員会等の後援をもらい、それぞれのプログラムの参加者募集チラシを作成し、主に県北の図書館や近隣のスーパー等に置いていただきました。また、Webページからもダウンロードできるようにもしました。他の参加者募集の方法として、SNSの活用と地元新聞社（夕刊デイリー、宮崎日々新聞）への掲載もお願いしました。

「麦からはじめるパンづくり」は、県北の小学校の3年生から6年生に、延岡市・日向市・門川町の教育委員会を經由して約3000部を配布しました。

「休耕田復元プロジェクト2025」は、県北の小学校の1年生から2年生に、延岡市・日向市・門川町の教育委員会を經由して約3000部を配布しました。

25 「春を楽しもう」は、市町村教育委員会を經由せず約3000部を直接小学校に持参しました。

## (7) その他目的を達成するために必要な事業

30 ① 黄色いレシートキャンペーン（10月11日）参加者：横山理事長、横山純子理事、加納理事、伊藤会員  
（2026年1月11日）参加者：横山理事長、横山純子理事、加納理事、井澤理事

日向イオン日向店にて、黄色いレシートの普及発展と子どもの森のPRをおこないました。2026年1月11日で14回目のキャンペーン参加となりました。支援を続けてもらっている店舗への感謝と、お客様に黄色いレシートを子どもの森に投函してもらい、子どもの森の活動を地域に知ってもらうのが目的です。

35 レシート金額の1%相当額が、活動のために必要な消耗品などの商品がイオン・グループ店舗において寄贈されます。子どもの森は、2006年から20年間で、約134万円を寄贈してもらっています。イオンの黄色いレシートで、子どもの森の応援をしてくださっている皆様に感謝します。

### ② 森の学舎の整備

40 森の学舎グラウンドと周辺の草刈りや樹木の選定を、4月29日、30日、5月4日、5日、8月2日、31日に、延べ21人の参加者（会員）で実施しました。

ピカピカ大作戦（大掃除）を、12月28日、29日に、延べ6人の参加者（会員）で実施しました。

森の学舎を管理運営にあたり年間に、電気代：41,611円、浄化槽管理費：3,800円、土地賃貸料：114,000円の費用支出がありました。

### 45 ③ 事務局経費

事務局の経費で特に支出の多い項目は通信費です。年間に、電話代：22,297円、携帯料金：30,160円、助成金申請や会員連絡など：6,536円の通信費を支出しています。

### ④ ビオトープ

50 ヘイケホタルが生息しており5月末から6月にホタルが舞うのを見ることができました。地区の集会場

の水タンクでオーバーフローした水を引いてきていますので、大雨等が原因で水源からの水が止まり、水が流れてこないことが数回ありました。その都度、水源を調べたり地区の関係者の方に連絡をして対処してきました。

5

### 3. 寄附金・助成金等

#### (1) 子どもゆめ基金（国立青少年教育振興機構）

10 ・春を楽しもうの事業費103.9千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が26.4千円と助成金90.1千円を受ける予定です。

#### (2) 子供たちの環境学習活動（高原環境財団）

15 休耕田復元プロジェクトの事業費463.9千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が57.0千円と446.0千円の助成を受けました。

#### (3) 連合愛のキャンパ

15 休耕田復活プロジェクトと併用で進めている「地域コミュニティによる耕作放棄地の活用と生活困窮者の支援」で休耕田復元や原野整備を軽減するためのマイクロショベルカー購入費（1,199,999円）に対して、400.0千円の助成を受けました。

20 2025年度が助成最後の年である3年目となり、総額1200.0千円の助成を受けることができました。

#### (4) イオン黄色いレシートキャンペーン

25 黄色いレシートキャンペーンの投函箱を、イオン日向店に設置しています。投函されたレシート金額の1%が団体に商品券で寄贈されます。2025年度は、22.0千円の商品券が寄贈されました。

#### (5) ろうきんNPO寄附

30 預金者が応援したいNPO法人へ、希望する金額を希望する日に、九州ろうきんが預金者に代わって預金口座から寄附先団体の口座に自動振替する制度で、1回の寄附額は100円以上です。3名の方から年間に、12.0千円の寄附がありました。

#### (6) 他寄附

35 横山理事長の各プログラムでの人件費他（65.0千円）と、鶴戸副理事長から10.0千円の寄附がありました。

### 4. その他

#### (1) みやざき森づくりボランティア協議会

40 6月15日に総会が開催され、横山理事長と鶴戸副理事長が出席しました。横山理事長は、2025年度に同協議会の副会長に再就任しています。

①10月26日に、ロキシーヒル（西都市圏地区）で、椿の実収集、②12月14日に、森の学舎で、椿油搾りが開催されました。

①には、横山理事長と横山純子理事が参加しました。②には、横山理事長と横山純子理事、井澤理事が参加しました。

45

#### (2) 認定NPOの取得

多額の費用が必要となる活動の資金調達を目的としての認定NPOの取得について、2020年8月28日付けで取得し、認定有効期限が、2025（令和7）年8月27日までの5年間になっていました。2025年度は、認定NPOの再取得を行いました。

50 認定NPO法人への賛助会員会費と寄付について、その額が所得税の寄附金控除になりますので、寄付を集めやすい環境が整っています。

(3) 臨時総会

宮崎県生活・協働・男女参画課の認定NPO法人の再取得の再認定調査にあたり、現状の総会や理事会の開催案内と委任の受け取りに関する内容を、メールやLINE等の電子文書で実施していることが定款に反することが判明しました。

- 5 そのために、定款の改定のための臨時総会を、8月31日に開催しました。定款については、子どもの森Webページからダウンロードすることができます。

臨時総会の出席状況 正会員数：14名、出席者：7名、委任者：7名

10 (4) 理事会

日時	場所	参加理事	内容
4月14日	そらいろのたね	4人	総会議案書の読み合わせ 総会参加者の確認 役員の重任について
5月8日	そらいろのたね	4人	総会議案書の修正 理事長選任について GW中の森の学舎整備 休耕田復元プロジェクトについて 麦刈りと脱穀
5月20日	森の学舎	6人	理事長選任の件
6月16日	そらいろのたね	4人	休耕田復元プロジェクトについて 子どもゆめ基金の2次申請内容の確認 直近のみやざき森づくりボランティア協議会の活動 森の学舎整備について 黄色いレシートキャンペーン
9月5日	そらいろのたね	4人	子どもゆめ基金事業の開催について 森の学舎整備について 黄色いレシートキャンペーン 次年度の活動に対する助成金申請 うつぎファームとの協同について
11月10日	そらいろのたね	4人	次年度の活動計画 今年度の残り活動 2026年度活動カレンダー（案）
12月2日	そらいろのたね	4人	次年度の活動計画 森づくりボランティア協議会の椿油搾り体験研修について 今年度の残り活動 2025年度活動カレンダー
3月17日	そらいろのたね	4人	次年度の活動への助成 春を楽しもう 監査について 総会について

※詳細は、Web上の議事録で確認のこと。

2025年度事業経過一覧

実施日		活動名	内容/備考
4月	13(日)	会計監査	
	20(日)	総会	森の学舎
	29(昭)、30(水) 5/4(み)、5(振)	森の学舎整備	草刈り 他
5月	10(土)、11(日)	「田んぼプロ」準備	田んぼ復元作業
	23(金)、25(日) 31(土)	昨年度 eco スクール残活動	麦刈り・脱穀
6月	7(土)、8(日)	「田んぼプロ」準備	田んぼ復元作業
	15(日)	みやざき森づくりボランティア協議会	総会
	21(土)	「田んぼプロ」準備	①の準備
	22(日)	①田んぼプロ	田植え
7月	12(土)	「田んぼプロ」準備	草刈り
	13(日)	②田んぼプロ	草取り、ネイチャーゲーム
	27(日)	③田んぼプロ	草取り、コナギ調理
8月	2(土)	森の学舎整備	草刈り 他
	10(日)	④田んぼプロ	草取り、田んぼの動植物観察
	24(日)	⑤田んぼプロ	草取り、案山子づくり
	27(水)	みやざき林業大学校	ネイチャーゲーム
	31(日)	森の学舎整備 臨時総会	草刈りなど 会員全員出席
9月	27(日)、28(月)	「麦栽培から～パン作り」準備	麦畑の整備
10月	11(土)	黄色いレシートキャンペーン	イオン日向店
	18(土)	「田んぼプロ」準備	⑥の準備
	19(日)	⑥田んぼプロ	稲刈り
	26(日)	みやざき森づくりボランティア協議会	椿の実収穫
11月	1(土)	「田んぼプロ」準備	⑦の準備
	2(日)	⑦田んぼプロ	脱穀
	8(土)	「麦栽培から～パン作り」準備	海水汲み
	9(日)	「麦栽培から～パン作り」準備	①の準備
	15(土)	①麦栽培から～パン作り	麦畑づくり
	22(土)	②麦栽培から～パン作り	麦蒔き
	29(土)	「田んぼプロ」準備	⑧の準備
	30(日)	⑧田んぼプロ	収穫祭
12月	2(火)	「田んぼプロ」準備	案山子終い
	13(土)	③麦栽培から～パン作り	塩づくり
	14(日)	みやざき森づくりボランティア協議会	椿油しぼり
	28(日)、29(月)	森の学舎整備	大掃除
1月	11(日)	黄色いレシートキャンペーン	イオン日向店
	17(土)	「麦栽培から～パン作り」準備	④の準備
	24(土)	④麦栽培から～パン作り	酵母・小麦粉づくり
2月	14(土)	⑤麦栽培から～パン作り	パン作り
3月	7(土)	「妖精の森」整備	雨天のため「春を楽しもう」準備
	14(土)、21(土)	「春を楽しもう」準備	野草下見、教室設営など
	22(日)	春を楽しもう	野草観察・調理

報告事項Ⅱ. 2025年度活動決算報告

2025年度 特定非営利活動に係る活動計算書  
(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	53,000		11人×5,000、特別:3人×1,000
賛助会員受取会費	5,000	58,000	1人×5,000
2. 受取寄附金			
受取寄附金	110,097		イオン黄色いシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄附
ボランティア受入評価益	665,747	775,844	
3. 受取助成金等			
受取助成金		939,100	子どもゆめ基金、高原環境財団、連合愛のキャン
4. 事業収益			
自主事業収益		230,600	プログラム3種、森の学舎貸料
5. その他収益			
雑収入		1,464	預金利息 他
経常収益計			2,005,008
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	146,000		プログラム3種
ボランティア評価費用	665,747		
人件費計	811,747		
(2)その他経費			
修繕費	20,542		地域コミュニティーの推進
諸謝金	76,000		プログラム3種
印刷製本費	49,989		プログラム3種のチラシ印刷(業者委託)
旅費交通費	47,612		プログラム3種
通信運搬費	5,500		プログラム3種 他
消耗品費	289,379		プログラム3種
損害保険料	24,435		
減価償却費	236,948		マイクロシヨベルカー
その他経費計	750,405		
事業費計		1,562,152	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
旅費交通費	4,840		森づくりボランティア協議会の総会・研修の出席 他
通信運搬費	59,145		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	26,805		事務局用PC、文房具 他
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	3,760		総会 他
研修費	0		会員の各種研修参加
租税公課	2,700		印紙(助成金申請)他
施設管理費	159,411		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
Web管理費	20,085		ドメイン、レンタルサーバー(3年分)
雑費	5,068		昨年度子どもゆめ基金助成金減額
支払利息	10,222		マイクロシヨベルカー借入金
その他経費計	295,036		
管理費計		295,036	
経常費用計			1,857,188
当期正味財産増減額			147,820
前期繰越正味財産額			1,834,815
次期繰越正味財産額			1,982,635

プログラム3種: 麦栽培からはじめるパン作り・春を楽しもう・休耕田復元プロジェクト  
ボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、宮崎県の最低賃金にて計上している。  
管理費のボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、計上していない。

## 2025年度 事業別活動計算書

科目	表栽培から はじめるパン 作り	春を楽しもう	休耕田復元 プロジェクト	地域コミュニティーの 推進	森林整備	森の学舎整 備	その他	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>										
1. 受取会費										
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	--	53,000	53,000
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
2. 受取寄附金										
受取寄附金	--	--	--	--	--	--	--	--	110,097	110,097
ボランティア受入評価益	242,079	35,035	219,899	0	8,092	141,318	19,324	665,747	--	665,747
3. 受取助成金等										
受取助成金	--	90,100	449,000	400,000	--	--	--	939,100	--	939,100
4. 事業収益										
自主事業収益	60,000	26,400	57,000	--	--	--	--	143,400	87,200	230,600
5. その他収益										
雑収入	--	--	--	--	--	--	--	--	1,464	1,464
経常収益計	302,079	151,535	725,899	400,000	8,092	141,318	19,324	1,748,247	256,761	2,005,008
<b>II 経常費用</b>										
(1)人件費										
賃金	--	17,000	129,000	--	--	--	--	146,000	--	146,000
ボランティア評価費用	242,079	35,035	219,899	0	8,092	141,318	19,324	665,747	--	665,747
人件費計	242,079	52,035	348,899	0	8,092	141,318	19,324	811,747	0	811,747
(2)その他経費										
修繕費	--	--	8,800	4,480	--	7,262	0	20,542	--	20,542
諸謝金	15,000	25,000	36,000	--	--	--	--	76,000	--	76,000
印刷製本費	22,905	12,811	14,273	--	--	--	--	49,989	--	49,989
旅費交通費	--	4,900	42,712	--	--	--	--	47,612	4,840	52,452
通信運搬費	880	3,960	660	--	--	--	--	5,500	59,145	64,645
消耗品費	22,907	38,467	217,776	4,573	--	5,656	0	289,379	26,805	316,184
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	--	3,760	3,760
損害保険料	7,875	1,800	14,760	--	--	--	--	24,435	0	24,435
租税公課	--	--	--	--	--	--	--	--	2,700	2,700
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	--	159,411	159,411
Web管理費	--	--	--	--	--	--	--	--	20,085	20,085
雑費	--	--	--	--	--	--	--	--	5,068	5,068
支払利息	--	--	--	--	--	--	--	--	10,222	10,222
減価償却費	--	--	--	236,948	--	--	--	236,948	--	236,948
その他経費計	69,567	86,938	334,981	246,001	0	12,918	0	750,405	295,036	1,045,441
経常費用計	311,646	138,973	683,880	246,001	8,092	154,236	19,324	1,562,152	295,036	1,857,188
当期経常増減額	△ 9,567	12,562	42,019	153,999	0	△ 12,918	0	186,095	△ 38,275	147,820

※ボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、宮崎県の最低賃金にて計上している。

5

黄色いレシートキャンペーン



林業大学校の学習支援



2025年度 特定非営利活動に係る貸借対照表（2026年3月31日現在）

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	75,282		
普通預金	1,672,143		
未収金	90,100		
前払金	4,296		
流動資産合計		1,841,821	
2 固定資産			
建設仮	379,500		
備品	3,284,999		
減価償却累計額	△2,810,388	474,611	
固定資産合計			854,111
資産合計			2,695,932
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	413,300		
借入金	299,997		
流動負債合計			713,297
負債合計			713,297
III 正味財産の部			
基本金	1,834,815		
当期正味財産増加額(減少額)	147,820		
正味財産合計			1,982,635
負債及び正味財産合計			2,695,932

2025年度 特定非営利活動に係る財産目録（2026年3月31日現在）

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手元有高	75,282	
普通預金	宮崎太陽銀行門川支店	949,321	
普通預金	九州ろうきん延岡支店	713,571	
普通預金	ゆうちょ	9,251	
未収金	子どもゆめ基金	90,100	
前払金	事務局電話代（金子幸一）	4,296	
流動資産合計			1,841,821
2 固定資産			
建設仮	古民家再生	379,500	
機械及び装置	チャパ-シュレッタ-（新タ-イ7CSE50-W）	253,050	
	チャパ-シュレッタ-（大橋GS121GB）	1,330,350	
	耕うん機（HONDA L'アンタ）	102,600	
	簡易炭窯（テキT105型）	399,000	
	マイクロソハ-ルカ-	1,199,999	
減価償却累計額		△2,810,388	474,611
固定資産合計			854,111
資産合計			2,695,932
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	こくみん共済（休耕田復元）	413,300	
借入金	マイクロソハ-ルカ-購入資金	299,997	
流動負債合計			713,297
負債合計			713,297
正味財産（注）			1,982,635

（注）正味財産は「資産合計」より「負債合計」を減じた金額を記載する。  
これが登記すべき「資産の総額」である。

上記財産目録に相違ない。

特定非営利活動法人 子どもの森

監査

佐藤 伸光



## 報告事項Ⅲ. 監査報告

### 監査報告書


2025年4月1日から2026年3月31日までの理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、以下の通り報告します。

#### 監査の結果

- この法人の会計の方法及びその結果は、相当であると認めます。
- 財産目録は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 貸借対照表は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 活動計算書は、法令及び定款に従い、この法人の状況を正しく示していると認めます。

2026年4月 5 日

特定非営利活動法人 子どもの森

監事 佐藤 伸光 

5

#### 春を楽しもう



## 議案 I . 2026 年度活動方針(案)

### 1. 農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

#### 5 (1) パンになるまでの大冒険※四季をまるごと体験 e c o スクールの派生

パンになるまでの大冒険は、申請していた子どもゆめ基金の助成金が不採択となりました。門川町のかどがわスマイル応援事業と子どもゆめ基金の後期募集に、助成金申請を考えています。

10 11 月の麦畑作業から年度末 3 月までの活動を申請したいと思います。申請が採択となり活動資金を確保できれば、充実した活動が行えるものとなります。年度超えた活動である麦の収穫については、事業がスタートしてから参加者に参加を募りたいと思います。

15 地域の小学生(3 年生以上)及び保護者が、小麦育てとパン作りを通して、自然環境に触れ観察等から学び、小麦栽培の農業体験、自分たちで作った食材料からパン作りを経験します。輸入に頼らなくても食が可能であることを実感し、食べ残しを極力少なくすることや食品の輸入による過大なエネルギーを減少させることで、地球環境への負荷を少なくした生活を実践してもらうための気づきを促します。

参加者募集は、過去の四季をまるごと体験 e c o スクールの参加実績から小学校を絞って参加者募集案内を配布することにします。

- 20 ・参加者：25 人(県北地域の小学生 3 年生から 6 年生 15 人と保護者 10 人)
- ・場 所：森の学舎及び麦畑
- ・助 成：かどがわスマイル応援事業(申請予定)、子どもゆめ基金(申請予定)

11 月 8 日(日)《開校(第 1 回)》9:30~15:00※雨天の場合は、9:30~12:00

- ・開校式：学校名や学年などの自己紹介。初対面である参加者同士が早く仲良くなるためのネイチャーゲーム(はじめまして、色合わせ、カモフラージュ、フィールドビンゴ)。
- ・畑に溝を掘り、昨年の麦藁や草刈り後の草を埋めていく。※雨天の場合は 11 月 15 日に延期

25 11 月 15 日(日)《第 2 回》9:30~12:00、※11 月 8 日が雨天の場合は 9:30~15:00

- ・畑に溝を掘り、昨年の麦藁や草刈り後の草を埋める。※11 月 8 日が雨天の場合にだけ
- ・耕うん機を使って畑を耕うん。
- ・筋に沿ってロープを張って麦の種蒔。

12 月 20 日(日)《第 3 回》9:30~15:30

- ・海水を簡易釜戸で沸かして水分を蒸発させ塩を採取。塩づくりの副産物であるにがりも採取。採取した塩をフライパンで炒めて乾燥。
- ・SDGs 目標 14 スライドとワークシートで「海の豊かさを守ろう」学習。
- ・第 2 回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏みを行う。

2027 年 1 月 24 日(日)《第 4 回》9:30~15:30

- ・パン作りで必要となる酵母の素(イチゴと砂糖と水)を食品瓶に仕込む。(食品瓶は自宅に持ち帰り自宅で酵母を育てる)
- ・前年度に脱穀した麦を石臼で挽いて小麦粉にする。
- ・石臼での麦挽きで汚れた室内と石臼の掃除。
- ・第 2 回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏みを行う。
- ・SDGs 目標 15 スライドとワークシートで「陸の豊かさを守ろう」を学習。

30

2027年2月14日(日)《第5回》9:30~15:30

- ・パン生地に練りこむバターを、生クリームと牛乳で作る。
- ・第3回で作った塩と、第4回で挽いた小麦粉と作ったバターでパン生地作り。
- ・1次発酵を済ませて、想いおもいの形にパン形成。
- ・パンを焼く。

—以降は助成対象外の活動となります—

5 2027年5月16日(日)《第6回》13:00~15:30※雨天決行

- ・前年度に種まきをして育った麦の刈りとり

※2027年度方針：第6回は、2027年度第1回目（導入として午前中はネイチャーゲーム等を実施）の活動と同時開催とする。

2027年5月30日(日)《閉校（第7回）》9:30~15:30

- ・第6回で刈りとった麦穂を足踏む式脱穀機で脱穀。
- ・脱穀した麦のもみ擦りをして、唐箕を使って実を分離する。
- ・修了証の交付。

10 ※2027年度方針：第7回は、2027年度第2回目（修了書の交付より前部分）の活動と同時開催とする。

他に、スタッフが各回に実施する内容の下見や事前準備等を下記の通り行います。

- ・海水汲み
- 15 ・石臼と石臼台の水洗い、石臼の目立てと廻し取手と臼上下をつなぐ芯棒の修理
- ・麦畑周辺の草刈り、ネイチャーゲームの下見
- ・脱穀機と唐箕の準備

(2) 昨年(2025年)度の麦栽培からはじめるパン作りの残活動

20 昨年度の残活動である麦刈りと脱穀作業を、昨年度の麦栽培からはじめるパン作りの参加者と子どもの森会員で実施します。

5月16日(土) 13:00~15:00※雨天決行

- ・前年度に種まきをして育った麦の刈りとり

25 5月30日(土) 9:30~15:30

- ・5月16日に刈りとった麦穂を足踏む式脱穀機で脱穀。
- ・脱穀した麦のもみ擦りをして、唐箕を使って実を分離する。
- ・修了証の交付。

(3) 休耕田復元プロジェクト

2023年度と一昨年度に復元した休耕田で、継続して米作り活動を「耕作放棄田の復元による里山再生がもたらす地域内外への貢献」として行います。

30

● 活動の目的

過年度に復元した田んぼを元の耕作放棄田に戻さないために継続して、無農薬・無肥料での田んぼの米作りを通して、里山の保全と自然環境について学習し、地球環境に負荷をかけないで自分たちにできる取組への気づきを促し、里山や中山間地域の自然景観を復元することで、田んぼ

35

● 活動の背景、ニーズ

子どもたちは、田植えを含む一連の米作りを通して、米作りに対する興味・関心の高まり、年

5 齢の異なる人との交流を持つことにより様々な立場の人との適切なコミュニケーション力の取得、生産や収穫の喜び食料の大切さを実感し米一粒を大切に作る意識、農業に関する現代的な課題に関心を抱き、自分なりの考えを持つようになって欲しい。他に、田んぼには、オタマジャクシやアメンボなど、都市生活において見かけることがなくなった生き物を、田んぼが育む生態系も学んでもらいたい。

● 活動内容

田起こし前の用水路整備と田んぼの草刈り、稲育成中での稗（ひえ）取り等の一連の田んぼ作業は、一般参加者とボランティアスタッフで実施する。

10 参加募集チラシを地域の図書館・スーパーに置き、当会ホームページ・SNS、環境情報センター等のホームページ、地元新聞を使って、一般参加者を広く公募していく。

稲刈り後の田んぼは保全のためレンゲ畑とする。

15 手植えによる田植え、年4回の草取り、手鎌による稲刈りと稲掛け、足踏脱穀機と唐箕による作業、そして杵と臼による餅つきをして食べるまでの節目の作業を体験実施する。

● 活動の対象（防災・減災、環境、人）への効果、影響

耕作放棄田をなくすことで、①～④が解決できる。

①雑草が生い茂り害虫が発生した著しく里山の風景の悪化。

②野生動物は、人の気配がないことを察してエサ場にして頻繁に出入りしている。

20 ③防災機能も失われ、災害時における危険度が高まる。地域の安全を守るためにも、耕作放棄地を減らす取り組みは必要不可欠である。

④不法投棄をする場所として狙われやすい傾向にある。ゴミの不法投棄による地域住民の生活環境への悪影響。

一般参加者と一緒に、毎年継続した田んぼの復元継続を進めて行くことができる。

25

● 地域社会、コミュニティへの効果、影響（発展に向けた地域や他団体との連携の展望等）

地区外から一般参加者やスタッフ会員・継続参加ボランティアが多く集まることで地域住民の理解が進み、地域あげでの協働体制が構築できる。

30 各種団体の集まりでの団体紹介や発表で申請事業の紹介を行うことで、環境問題としての田んぼ復元や田んぼを活用して環境学習が広く波及できる。

上記のことから、行政や他団体との協同開催も視野に入れることができる。

継続参加してくれるボランティアスタッフや一般参加者を、復元した田んぼを引き継ぎできる担い手となる。

35 米作り体験の場として、一般参加者を募って、田植え、年4回の草取り、稲刈り、脱穀、そして餅つきをして食べるまでの節目の作業を体験実施して行きます。

田起こし前の用水路の整備と田んぼの草刈り、稲育成中での稗（ひえ）取り等の一連の田んぼ作業は、会員・ボランティアで実施します。

40 参加者募集は、過去の四季をまるごと体験e c oスクールの参加実績から小学校を絞っての参加者募集案内を配布することにします。

・参加者：22人以上（県北地域の親子及び成人）

・場所：北郷黒木の休耕田、そらいろのたね

・助成：こくみん共済地域貢献助成

45 ・外部指導者：昆虫写真家の新開孝さん（8月23日「田んぼに生息する昆虫の観察」）

日 程	内 容	予定参加者
5月5日 6日	草刈り・草取り 用水と畔づくり等の田んぼ修復作業	会員、ボランティア
6月6日 7日	田植え準備（耕うん、田起こし、代掻き）	会員、ボランティア
14日	田植え直前の準備	会員、ボランティア
21日	手植えによる田植え	一般参加者 会員、ボランティア
7月5日	草取りと環境学習（田んぼ観察を目的としたネイチャーゲーム） ※フィールドビンゴや音いくつ、動物交差点などを実施する	一般参加者 会員、ボランティア
26日	草取りと環境学習（田んぼのコナギを食べる） ※湯搔いて焼きそば等の具材にする	一般参加者 会員、ボランティア
8月23日	草取りと環境学習（田んぼの生態系調査） ※田んぼに生息する昆虫の観察	一般参加者 会員、ボランティア
9月13日	草取りと環境学習（案山子づくり） ※不要となった衣類等でリユースの実体験をする	一般参加者 会員、ボランティア
10月11日	稲刈り（稲掛け竿等）の準備	会員、ボランティア
12日	手鎌による稲刈り、レンゲの種蒔き	一般参加者 会員、ボランティア
10月31日	足踏み脱穀機・唐箕の準備	会員、ボランティア
11月1日	脱穀	一般参加者 会員、ボランティア
12月5日	餅つき道具（セイロ・羽釜・臼・杵）の準備	会員、ボランティア
6日	収穫祭（餅つき）	一般参加者 会員、ボランティア

※日程は、天候や米の発育等で変更する場合があります。

他に、田んぼの状況によって会員による草刈りや草取りがあります。

5 一般参加者が参加する活動は午前中（9:00～12:00）とします。ただし、脱穀（11月1日）は作業時間を多く必要とするため、終了予定を15時にしたいと思います。

稲刈り後の田んぼは、保全のためレンゲ畑とします。

収穫したうるち米を参加者（参加費相当分）で分配（収穫量によって異なりますが）したいと思います。

10

## 2. 中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

### （1）妖精の森

15 2009年から続けている森の学舎裏の放置されている竹林の一部を落葉樹の林に変えて行く活動は、地権者と正式に山林使用協定を結べない事情があるので、他活動で必要となる竹の伐採にとどめます。また、新たに生えてくる竹の除去は続けて行きます。

### （2）お地蔵さんの森（森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動）

20 手入れが行われず放置されている里山と、その里山と隣接している五十鈴川支流のオモボリ谷と菅の谷の合流する沢（松瀬川と称す）を子供たちが入り遊ぶことができる森林づくりを2019年度から実施しています。

整備した里山と松瀬川、そして森の学舎を一体的に活用し、子どもやその保護者を対象とした森林の動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能を知るための体験型環境学習を実施するためのフィールドとして活用します。

25 また、作業スペースに活用できる廃道と樹木名プレートを探索する場所の草刈りを実施します。

(3) 子どもの森1号地とGOCANの森  
 昨年度同様、経過観察を続けていきます。

5 3. 地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

(1) イカダで出動！川のみもり隊

これまで、四季をまるごと体験e c oスクールの一つのプログラムとして実施していた「いかだで河川清掃」に特化した活動で、自作したイカダで河川清掃を行います。

10 単なる環境美化にとどまらず、参加者が自然と主体的に関わる体験を通じて、環境保全への意識を高めることを目的とします。

実際に川に入り、生き物を探し、記録する体験を通じて、生態系のバランスや人間活動の影響について考える力を育むことをねらいとしながら、地域の自然とふれあうことで、環境保全への関心と行動意欲を高めます。

15

- ・参加者：子ども15人、保護者10人（子どもが過半数を超えること）
- ・場 所：森の学舎、五十鈴川
- ・助 成：子どもゆめ基金

日 程	内 容
7月20日 (月祝)	ネイチャーゲーム ・アイスブレイクとして「はじめまして」実施 イカダ作り ・河川清掃で使う自作イカダを作り (材料：2Lペットボトル、コンパネ、紐) イカダアート ・イカダに自然への思いを絵で表現
8月2日 (日)	イカダでの河川清掃 ・準備体操 ・森の学舎の前を流れている五十鈴川を、制作したイカダに乗っての河川清掃。 河川の水質調査 ・調査セットで水質を見える化。 川の生きもの調査 ・箱メガネを使って、川虫や蝦・魚を網で捕り、川岸に生息している生き物のパネルを用意して、捕った生き物の名前を確認した後は川に放す。 ・着替え ※雨天時は、8月9日に延期する。

20

(2) 春を楽しもう

春になって野草の芽吹きに触れることで自然に対して興味・関心を高め、野草の名前を覚え食することで自然の恵みが身近なところにあることを確認します。この活動を通して自然環境を大切に思い守る意識の認識してもらいます。

25

- ・開 催 日：2027年3月22日（月振）
- ・参 加 者：子ども15人、保護者10人（子どもが過半数を超えること）
- ・場 所：森の学舎と周辺
- ・助 成：子どもゆめ基金（申請予定）
- ・外部指導者：成迫平五郎氏（野草観察）

30

① 野草観察

指導者やスタッフと一緒に森の学舎と周辺を散策し、生息する野草などの説明を受ける。野

草の名前や特徴を覚えることで、地域の身近な自然に対する興味・関心を高める。スタッフと参加者で知識を共有するだけでなく、観察中に話しかけながら交流を図り、屋外での活動となるため指導者の説明が十分に伝わるよう配慮します。

5 ② 参加者で昼食作り

食べることができる野草を食べる分だけ摘んで調理する。野草を食べることで自然の恵みへの感謝の気持ちを認識する。調理それぞれに、スタッフを配置しスムーズな調理の流れに配慮します。

10 参加者の五感を使った活動とするために、受け身の受講とせずスタッフと一緒に調理をして交流を図り印象を強く残すように配慮します。

4. 地場産業の振興、街づくり、人づくり

15

(1) 古民家再生

地域のサードプレイス（環境学習の教室、日常的に大人や子どもが集まる処、防災時の補助的な避難所、地域の農産物販売所など多様な利用方法があると思われます）として、美郷町北郷黒木にある築118年の古民家を再生したいと思います。

20 2022年度に、業者による躯体改修概算見積をおこないましたが、クラウドファンディングだけの寄付金額では、とても賅うことができない高額であったため実施できていませんでした。

この古民家は、柱や床などがシロアリ被害によって、家全体が歪んでいるので業者による家屋の躯体修復作業を施して、躯体修復が終わったらワークショップで床や壁などの施工を進めて行くことができます。家屋の躯体修復作業にかかる費用は、クラウドファンディングでの資金調達だけでなく何らかの公的な補助金を模索していきたいと思えます。

25

古民家再生の予算案については、資金調達の目途がたって、クラウドファンディングをスタートする時点で、計画を立案して会員に提示します。

※サードプレイスとは、仕事に関わる「職場」やプライベートな「家庭」とは異なる3つ目の居場所を指す言葉です。ただし、それは単に居場所があればサードプレイスになるわけではありません。インフォーマルな公共の空間で、上下関係のない人々が自由に会話を交わすことができるという環境は、人々に自尊心を取り戻させたり精神的なゆとりを与えたりするのです。サードプレイスの代表例としては、ドイツの居酒屋やイタリアの食堂などであり、人々のコミュニケーション欲を満たす場所として機能しています。コミュニティーのような義務や権利が存在しないのもサードプレイスの特徴です。

30

5. 市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業

地域の課題に対して何かの役に立ちたいと思い、地域活動に参画する意向のある人は増えてきています。そうした動きに対して行政も、地域の活性化、雇用の確保、行政サービスの補完等の観点で関心を持っています。しかし、意欲のある人や団体でも、具体的な始め方、仲間や協力者の見つけ方、必要な知識やスキルの身に付け方等、いくつかのハードルの存在が想定されます。従って、それらを克服し、参加意欲を実際の行動に結び付けていけるような支援の仕組みを地域に構築することの必要性があります。市民活動の活性化に関わる企画やコーディネート等、何らか携わることができればと考えています。

40

(1) うつぎファームとのコラボ

他の法人（うつぎフォーム）との協同開催事業として、玉ねぎの植え付けと収穫を実施します。休耕田還元プロジェクトや麦栽培からはじめるパン作り他、子どもの森が開催するプログラムの

参加者に参加を呼び掛けます。

## 6. 活動の情報発信・啓発のための事業

5

活動を告知することで活動の参加者を募集し、活動の内容を情報発信することで子どもの森の活動への理解を通して、自然環境の大切さ、地域を良くするための協働への参画を促していきます。

### (1) Webサイトの運営

10 子どもの森の活動と自然環境啓発等を、Webページにて発信していきます。また、Webページでは発信しづらい細かい情報は、Facebook と Instagram で発信していきます。

## 7. その他目的を達成するために必要な事業

15

### (1) ビオトープ

森の学舎のビオトープは、ミニ田んぼ・水路・池とつながった一連の水辺環境で、森の学舎隣の地区集会場にある水タンクからオーバーフローしている水をホースで引いています（地区の集会場の水タンクには、谷沢の水をホースで注いでいる）。ビオトープの活用にあたり必要な改修改善を行なっています。水辺に生息する草や水生生物は、人工的に持ってこず自然の復元力に委ねます。

森の学舎で開催する環境学習にて、水辺の生きもの観察や麦作りを行い自然環境の観察等を行います。

### (2) 活動拠点「森の学舎」の活用と整備

25 2006年11月に、公募により門川町から譲与を受けた旧西門川小学校松瀬分校は、2008年度に、日本財団と連合愛のキャンパからの助成金を受け、会員その他ボランティアによって修繕を進めてきました。また、ボーイスカウト等の団体を含めた一般開放、森林や環境等の図書や児童書・絵本を整備して環境文庫の設置などの整備を行なってきました。そして、2009年度は、セブンイレブンみどりの基金と門川町まちづくりプレイヤー支援、連合愛のキャンパからの助成を受け、五右衛門風呂小屋と釜戸小屋の製作と、薪ストーブの設置、環境関連図書の購入を進めてきました。

30 当初、行政が絡んでいない民間団体での廃校活用は他に例がなく、森の学舎は廃校になった学校の先駆的な活用例として注目されました。森の学舎と周辺地域との関係も視野に入れ、環境問題を切り口とした地域コミュニティとしての役割など、廃校の更なる活用も目指していかなくてはなりません。

2010年度で、急ぎ必要な森の学舎の整備は終わったと思われます。これからは、どのような整備が必要かを検討しながらの整備を進めていきます。そのための資金として、特別積立金の設定をしています。森の学舎の開放と森の学舎で行なう環境学習の依頼があれば受入をしています。

40 2022年度は、老朽化した竈小屋と五右衛門風呂小屋を、日本郵便より「年賀寄付金による社会貢献事業助成」を受けて建て替えができました。また、五右衛門風呂2号小屋も会員によって建て替えが終了しました。

環境関連図書（環境文庫）の設置をしてから、16年が経過しています。その間、増えた図書の整備を行っていません。今年度は、蔵書している図書の整備を行えればと思います。

初夏と夏と秋にランドと周辺の草刈りを実施します。

45 草刈り等の森の学舎整備と蔵書している図書の整備及び清掃を、4月に2日間、5月に2日間、7月に2日間、9月に2日間、12月に2日間、実施したいと思います。

### (3) 子どもの森が加盟する団体

50 今年度も引き続き「みやざき森づくりボランティア協議会」に、団体会員として加盟します。同協議会での総会や研修会への参加をすることで、同じ森づくりや環境問題に取り組んでいる団

体との交流ができます。また、同協議会が開催する研修会では、森づくり活動への考え方や森林作業の学習等を学べます。宮崎県内の森づくりを実施している団体の相互協力と交流、森づくりの研修が、本協議会の活動の中心となっています。可能な限り協議会が開催する総会や研修への参加や協力を行っていきます。

5 同協議会の年間に活動は、6月に開催される同協議会の総会で決定されます。

(4) 黄色いレシートキャンペーン

10 黄色いレシートキャンペーン投函ボックスは、2022年度から、イオングループで1店舗のみの登録となったため「イオン日向店」にお願いしています。黄色いレシート発行の日の11日が土日または、祝日となる日を選んで、イオン日向店におけるキャンペーン協力に参加したいと思ひます。今年度は、2日間のキャンペーン協力を予定したいと思ひます。

(5) 理事会の開催

15 定期的に理事会を開催して、活動の詳細内容の決定や確認、次年度の活動計画等を議論していきます。

主 場 所：そらいろのたね

時 間：19時00から

日付（予定）：7/13、10/5、12/7、2027/3/15、4/19

20 活動の連絡や確認事項だけの議題であれば、活動や各準備の後に実施をしていきます。

(6) リーフレットの制作

25 会員や賛助会員、そして寄付金受け入れを拡充することで、活動へのマンパワーと活動資金をより多く受け入れることができ、活動をさらに充実させることができます。これまでの子どもの森の活動を広く発信、会員や賛助会員の募集、そして寄付金受け入れを案内するリーフレット（1000枚程度）を制作し理事等で配布していきます。

8. 助成について

30

今年度の活動への助成金は下表のとおりです。

助成名	助成元	助成事業（プログラム名）	助成額	備考
子どもゆめ基金	国立青少年教育振興機構	イカダで出動！川のみもり隊	187千円	
		パンになるまでの大冒険	379千円 (申請予定)	2次募集で申請
		春を楽しもう	106千円 (申請予定)	2次募集で申請
地域貢献助成	こくみん共済 Coop	休耕田復元プロジェクト	413千円	
かどがわスマイル 応援事業	門川町	パンになるまでの大冒険	312千円 (申請予定)	7月頃に採否決定

9. 次年（2027年）度以降の活動

35

一昨年までの四季をまるごと体験ecoスクールの麦蒔きから麦刈りまでを11月から翌年5月までの実施期間とします。期間中はパン作りのための小麦粉・酵母・塩・バター作りを入れて食を切り口にした活動内容に特化したいと思ひます。

40 川をフィールドとする夏の活動は、7月末から8月初めになります。川をフィールドにする活動を複数計画すると、台風による川の増水や雨による延期する危険性が大きく、延期実施に対応でき

ないため、次年度以降も一つに絞ります。

「イカダによる河川清掃と生き物調査」と「川でのネイチャーゲームを主とする河川の大切さ」の二つの活動を交互開催したいと思います。

5 「お地藏さんの森」は、樹木伐採や沢への昇降道の整備が 2011 年度に終了しているので、自然体験活動でのフィールドとしての活動とメンテナンス的整備を実施して行きます。

「妖精の森」は、生えてくる竹の伐採を実施し、「子どもの森 1 号地」と「GOCAN の森」は、引き続き、経過観察をして行きます。

10 また、杉を伐採した跡地で広葉樹の植樹が可能な山があったら、宮崎県森林環境税の森林づくり活動支援を活用して、地主と協議を進めながら第五の森づくり活動も実施したいと思っています。

古民家再生は、資金が揃えば、業者による家屋修復は実施できると思いますが、ワークショップによる室内再生を今年度中に完成させることは難しいので、次年度も検討を続けていきます。

15 市民活動の活性化に関わる企画として、復元した田んぼのある北郷黒木にて、地域の方々と一緒になって、ひまわり畑による中山間地域の景観保全活動を進めていきたいと思っています。

昨年までは、北郷黒木地区による定住戦略事業の一つとして、ひまわり畑の活動をしています。昨年度で定住戦略事業が終了しました。この事業には、横山理事が参加していて、そのノウハウが蓄えられています。

20 市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業、そして中山間地域の環境保全と景観保全を進めるために、景観事業の助成金を活用して地域住民に協力していきます。

25 休耕田の復元は、何らかの環境保全・環境学習の助成金を申請しながら続けていきたいと思っています。助成金の申請をしても不採択になることも考えられます。その場合は、助成金がない状況でも続けていきます。また、休耕田を復元した田んぼの稲刈り後のレンゲを使った活動も実施したいと考えています。

30 地域コミュニティによる耕作放棄地の活用では、原野に植栽した実のなる樹木の捕植や草刈りを実施して、将来的には果樹や野菜を育て収穫できる体験農園とすることを進めて、収穫した果実を加工して地域活性化となる地域独自の 6 次産業を実現させたいと思っています。

他に、将来の自然体験活動として、ネイチャー工作の一環となるコケ玉・樹木カレンダー・門松づくり、つる工作等の特色ある計画を練っていきます。

35

休耕田復元プロジェクト



麦栽培からはじめるパン作り



議案Ⅱ. 2026年度活動予算(案)

2026年度 特定非営利活動にかかる活動計画書  
(2026年4月1日から2027年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	58,000		11人×5,000、特別:3人×1,000
賛助会員受取会費	5,000	63,000	1人×5,000
2. 受取寄附金			
受取寄附金		110,000	イオン黄色いシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄附
3. 受取助成金等			
受取助成金		1,085,000	子どもゆめ基金、こくみん共済、門川町
4. 事業収益			
自主事業収益		168,300	プログラム4種、森の学舎貸料
5. その他収益			
雑収入		1,500	預金利息 他
経常収益計		1,427,800	
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	353,500		プログラム4種
人件費計	353,500		
(2)その他経費			
修繕費	8,000		森の学舎
諸謝金	106,500		プログラム4種、森の学舎、森林整備
印刷製本費	71,200		プログラム4種の参加者募集チラシ印刷(業者委託)
旅費交通費	146,010		プログラム4種
通信運搬費	24,500		プログラム4種
消耗品費	521,800		プログラム4種、森の学舎、森林整備
損害保険料	40,790		プログラム4種
減価償却費	158,044		マイクロショベルカー
その他経費計	1,076,844		
事業費計		1,430,344	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
印刷製本費	10,000		子どもの森PRリーフレット(業者委託)
旅費交通費	5,000		森づくりボランティア協議会の総会・研修の出席 他
通信運搬費	60,000		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	1,000		文房具 他
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	4,000		総会 他
租税公課	2,700		印紙(助成金申請)他
施設管理費	160,000		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	5,000		昨年度子どもゆめ基金助成金減額 他
支払利息	4,500		マイクロショベルカー借入金
その他経費計	255,200		
管理費計		255,200	
経常費用計		1,685,544	
当期正味財産増減額		△257,744	
前期繰越正味財産額		1,982,635	
次期繰越正味財産額		1,724,891	目的積立(1,000,000)含む

プログラム4種：川をまもり隊・パンになるまでの大冒険・春を楽しもう・休耕田復元プロジェクト

- 5 ※会費 正会員：5,000円(ただし特別正会員は1,000円) 賛助会員：5,000円(ただし特別賛助会員は1,000円)  
特別正会員とは、社会に出る前の大学生や専門学校生と、同一世帯で2人以降の正会員で、総会での議決権など、通常の正会員と同じ権利を有します。特別賛助会員とは、同一世帯で2人以降の賛助会員です。  
※目的積立：将来の大規模な森の学舎修繕に備えた積立をおこないます。現在、雨漏りがあるためシートで応急処置をしていますが、修繕費が認められる助成金等にて雨漏り修繕をしたいと考えています。その時に、目的積立を取り崩して自己資金部分に充当させます。
- 10

2026年度 事業別活動計画書

科目	パンになるまでの大冒険	川のももり隊	春を楽しもう	休耕田還元	地域コミュニティの推進	森林整備	森の学舎	その他	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>											
1. 受取会費											
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	58,000	58,000
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
2. 受取寄附金											
受取寄附金	--	--	--	--	--	--	--	--	--	110,000	110,000
3. 受取助成金等											
受取助成金	379,000	187,000	106,000	413,000	--	--	--	--	1,085,000	--	1,085,000
4. 事業収益											
自主事業収益	75,000	32,500	25,800	35,000	--	--	--	--	168,300	0	168,300
5. その他収益											
雑収入	--	--	--	--	--	--	--	--	--	1,500	1,500
経常収益計	454,000	219,500	131,800	448,000	0	0	0	0	1,253,300	174,500	1,427,800
<b>II 経常費用</b>											
(1) 人件費											
賃金	170,000	41,000	30,500	112,000	--	--	--	--	353,500	0	353,500
人件費計	170,000	41,000	30,500	112,000	0	0	0	0	353,500	0	353,500
(2) その他経費											
修繕費	--	--	--	--	--	--	8,000	--	8,000	--	8,000
諸謝金	22,000	28,000	17,500	39,000	--	--	--	--	106,500	--	106,500
印刷製本費	20,000	20,000	15,000	16,200	--	--	--	--	71,200	10,000	81,200
旅費交通費	56,500	24,000	16,150	49,360	--	--	--	--	146,010	5,000	151,010
通信運搬費	8,700	7,220	7,920	660	--	--	--	--	24,500	60,000	84,500
消耗品費	163,780	90,290	42,750	213,980	--	5,000	6,000	--	521,800	1,000	522,800
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	4,000	4,000
損害保険料	13,020	8,990	1,980	16,800	--	--	--	--	40,790	--	40,790
租税公課	--	--	--	--	--	--	--	--	--	2,700	2,700
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	160,000	160,000
雑費	--	--	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
支払利息	--	--	--	--	--	--	--	--	--	4,500	4,500
減価償却費	--	--	--	--	158,044	--	--	--	158,044	--	158,044
その他経費計	284,000	178,500	101,300	336,000	158,044	5,000	14,000	0	1,076,844	255,200	1,332,044
経常費用計	454,000	219,500	131,800	448,000	158,044	5,000	14,000	0	1,430,344	255,200	1,685,544
当期経常増減額	0	0	0	0	△ 158,044	△ 5,000	△ 14,000	0	△ 177,044	△ 80,700	△ 257,744

ボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、決算にて宮崎県の最低賃金にて計上するが、予算では計上しない。

- 5 ※20名以上の参加者がないとボランティア保険の対象とならないため、一般参加者がいないプログラム4種以外の活動への参加での事故やケガについては自己責任（ご自身の加入している損害保険等での対応）をお願いします。  
 ※地域コミュニティの推進に係る収支が発生する場合には、補助科目（活動名）を増やして会計処理していきます。





事務局/森の学舎：宮崎県東臼杵郡門川町大字川内字イカダ場 3412 番地 1

TEL 0982-63-0009 携帯：080-2696-5180

<https://www.kodomonori.info>

[info20@kodomonori.info](mailto:info20@kodomonori.info)

facebook <https://www.facebook.com/npo.kodomonori>

Instagram <https://www.instagram.com/kodomonori.2003npo>

協働創出市サイト <http://dp25242621.lolipop.jp/kyoudou>